屋根の知識　　日本の鬼面瓦

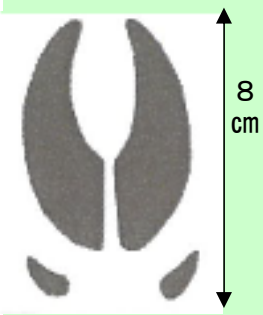
日本に瓦が伝わってきたのは、飛鳥時代（西暦６００年頃）と言われています。伝えたのは朝鮮三国時代の百済からきた技術者だそうです。その際、百済においては、西暦５００年頃にはすでに双角で、口を大きく開いた立派な手本となる鬼面瓦（鬼面紋瓦）があったのですが、日本には一切伝わってきていません。そのうち鬼面紋瓦は次第に姿をけしていったようです。中国や韓国の人が考える鬼は、人が死ぬと心を司る魂は天に昇って神となり、身は地に帰ってその魂は鬼となると考えられ、死者のさまよえる霊が『厲鬼』となるので、陰の霊なのです。とても神聖な宮殿や仏殿の屋根に掲げられる性質のものではないのです。 それに対して社会悪の数々が重なった暗い時代に疫病や天災事変の続いた日本では、弱者が強い鬼に憧れ、正義の思いが忠節な鬼となり、佛に頼る心が鬼となり佛法の守りとして屋根に上げられた物だとおもわれます。鬼面瓦は室町時代（１４００年頃）に出現していますがその頃から処々のお寺に鬼面瓦が揚げられるようになった様子です。世界中で日本のみしか使用されていない鬼面瓦

No.29
令和　2年　4月
世 羅 郡 世 羅 町 本 郷 1013-2
小 川 瓦 株 式 会 社

動物(害獣)の足跡

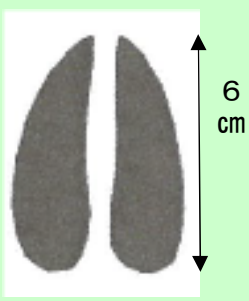
最近は、鹿や猪が里に出てくるのは珍しくなくなりましたね。他にも畑の作物や田んぼに被害を及ぼしたり、屋根裏に棲みついたり、あるいは、庭出てきて危害を与えられるかと思いびっくりさせられたなどと、よく聞く話になっています。私達の身の回りにいる害獣は一体どんな動物なのでし土の上ではわかりにくい場合もありますが、足跡を参考になさってください。

猪



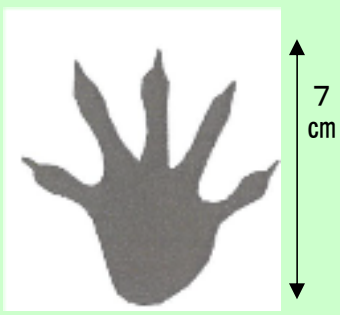
長い蹄の跡が２つ、その後ろに1対の副蹄がつくのが特徴です。

鹿



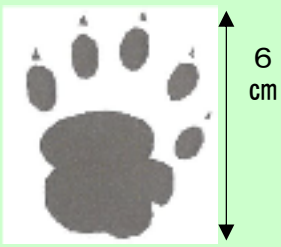
猪と似ていますが副蹄がつきません。

アライグマ



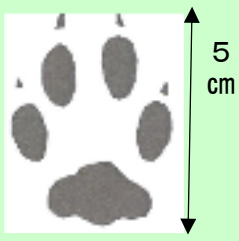
手のひらから指先まで切れ目なくきれいにつきます。この特徴はアライグマだけです。

ハクビシン



丸っこい手のひらの外側に、丸いハンコのような肉球の跡がつきます。

きつね

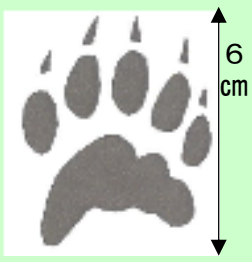


狸よりもひし形に近く幅がスリムで前足の足跡に後ろ足を重ねて歩くとされてます。

たぬき

猫と似ていますが、猫は普段爪をしまっているので、爪痕はつきません。

あなぐま



巣穴を掘るアナグマは長く鋭い爪をもっています。肉球は５つで幅広く爪痕がくっきりつきます。

熊

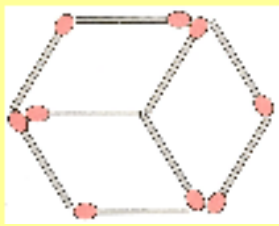
こんなに大きいサイズの足跡は熊しかいません。大き目の手のひらとアーモンド形の肉球が特徴です。

イタチ

とても小さな肉球で手のひら部分から少し離れてついています。
体重が軽いので、土の上には残りにくいです。

マッチ棒クイズ

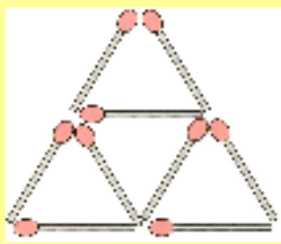
①



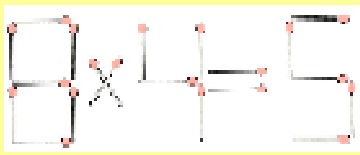
① マッチ棒を3本動かして正三角形を3個にしてください。

② マッチ棒を3本動かして正三角形を2個にしてください。移動は大きな三角形の内側で考えてください。

②

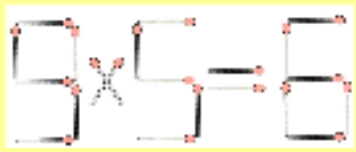


③



マッチ棒を2本動かして正しい式にしてください。

④



マッチ棒を2本動かして正しい式にしてください。

答えは次号へ

I　LOVE　ペット

M　邸　りん

赤ちゃんの時、網にかかって瀕死の状態から救出！３カ月もの間、オスをメ
と勘違い。その為女の子の名前だそうです

ビフォー＆アフター

三原市　M邸

新型コロナウィルスについて

≪コロナウィルスはどんなウィルスですか≫

これまでに、人に感染する「コロナウィルス」は７種類見つかっており、その中の一つが、昨年の12月以降に問題となっている「新型コロナウィルス（SARS-CoV２）」です。このうち4種類のウィルスは、一般の風邪の原因の１０～１５％（流行期は３５％）を占め、多くは軽症です。残りの２種のウィルスは、2002年に発生した「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や２０１２年以降に発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」です。コロナウィルスはあらゆる動物に感染しますが、種類の違う他の動物に感染することは、ありえないとされています。また、アルコール消毒（７０％）などで感染力を失うことが知られています。

≪感染の仕方≫

一般には　※飛沫感染、※接触感染で感染します。空気感染は起きていないと考えられています。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話する環境では咳やくしゃみなどがなくても感染を拡大させるリスクがあります。

飛沫感染とは　感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つば、鼻水など）と一緒にウィルスが放出され、他の方がそのウィルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。（眼にウィルスがくっついても感染すると言われています。）　飛沫は、最大２ｍくらいまでしかとびませんから、飛沫を浴びなければ、同室にいたり、すれ違っただけでは感染は成立しません。

接触感染とは　感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウィルスがつきます。そして他の方がそれを触るとウィルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

よく無意識に顔を触りますが、目、鼻、口の粘膜から簡単に感染します。手洗いをするまで、あるいはアルコールで消毒するまでは、意識して顔に触らないようにしましょう。

≪感染力≫

感染力は事例によって様々です。一部に特定の人から多くの人に感染したと疑われる事例がある一方で、多くの事例では感染者は周囲の人にほとんど感染させていません。また、無症状や軽症の人であっても、他の人に感染を広げる例があるなど、感染力と重症度は必ずしも相関していません。このことが、この感染症への対応を極めて難しくしています。

≪一般的な症状とPCR検査について≫

ほとんどの方はかかっても、軽度の症状が出るのみで自然に治ると言われています。厄介なのは、初期は普通の風邪やインフルエンザの症状と全く区別がつかないことです。発熱や呼吸器症状が1週間前後続くことが多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多くなっています。入院期間はインフルエンザよりよりも長くなる事例が報告されています。また、重症度は、インフルエンザと比べて高いリスクがあります。特に、高齢者や基礎疾患をお持ちの方は重症化するリスクが高まります。

現状では、新型コロナウィルスを検出できるのはPCR検査しかありません。（3月１２日現在）　その為、国内に感染が進行している現在、全ての人にPCR検査をすることはできません。必要とされる場合に適切に実施する必要があります。急激な感染拡大に備え、限られたPCR検査の資源を、重症化のおそれがある方の検査の為に集中させる必要があると考えられます。

≪感染を予防する為の注意≫

まずは、石鹸やアルコール消毒液などによる手洗いを行ってください。咳などの症状のある方は、※咳エチケットを行ってください。

※咳エチケットとは 感染症を他の人に感染させない為に、咳・くしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、脇の内側などを使って口や鼻を押さえることです。マスクは、咳や飛沫及びそれらに含まれるウィルス等病原体の飛散を防ぐ効果が高いとされています。咳やくしゃみのある人は積極的にマスクをつけましょう。

ウィルスは、ざらざら・でこぼこした物より、ツルツルした物に長い間（最高9日間位）付着しているようです。ドアノブや手すり、机、テーブル忘れがちですが、携帯やスマホも同様です。アルコールでこまめに消毒をしましょう。現在アルコールも不足で手に入りにくいですが、家庭用の漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）でも代用できるようです。500mℓの水に（500mℓの飲料水ペットボトルを使用されるとよいです。）ペットボトルの蓋1杯分の漂白液を入れて消毒液をつくります。人体には使用できませんが、物の消毒には使用できます。使用後、金物は水拭きをしておきます。漂白剤ですので服などにつかないよう気をつけましょう。トイレの場合はキャップ2杯で消毒液を作ると良いそうです。

マスク不足も深刻ですが、健康な人の予防としてのマスクは意味がないそうです。マスクは、飛沫を予防しなくてはならない人が使用しましょう。本当に必要な人にわたらない事は健康な人が使用して感染を防ぐことより、ずっと怖い事なんです。

そして**一番の予防は手洗いです。**ウィルスは石鹸で落ちるそうですから、石鹸で丁寧に指の間、手のひら、手の甲、指先、手首を流水で20秒洗い流しましょう。もちろんアルコール（エタノール）消毒液があればそれもいいです。

厚生労働省ホームページ他　参照

厚生労働省から皆様にお願いしたいこと

国内での感染拡大を防ぐ為に私達が出来る事は実践していかねばなりません。とくに風邪や発熱などの軽い症状が出た場合には、外出せず自宅で療養してください。ただし、風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いていたり、強い倦怠感や息苦しさがある場合は（※高齢者や基礎疾患等のある方は2日程度続く場合）決して我慢することなく、「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

三原・尾道・世羅地区　　広島県東部保健所　平日　☎　０８４８－２５－２０１１　　休日　☎　０８２－５１３－２５６７

また、症状のない人も対面で接触や会話が一定時間続き、多くの人々との間で交わるような環境に行くことは出来る限り回避してください。症状がなくても感染している可能性がありますが、心配だからと言ってすぐに医療機関を受診しないでください。医療従事者や患者に感染を拡大させないよう、また、医療機関に過重な負担とならないようご留意ください。